

令和7年度 調布市立第二小学校 学校評価報告書（学校長 関村 明子）

学校の教育目標

「かがやけ二小の子」 ○「か」んがえる子 ○「が」んばる子 ◎「や」さしい子（重点） ○「け」んこうな子

目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像

☆目指す学校像『子どもたち、地域・保護者、教職員の笑顔あふれる学校』

☆3つの大切、3つの笑顔（・自分を大切に・相手を大切に・地域を大切に ・子ども、教職員、地域の笑顔）

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標> ※数値はアンケートでの肯定的評価。保…保護者、児…児童、教…教職員。

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	① 特色ある教育活動の1つとして重視している「たてわり活動」の推進により、自他尊重の気持ちや思いやりの心、自己有用感の育成を図ることができた。	① 思考場面を大切にし、自分の考えを明確にもたせ、ペア・小グループ・全体での話し合い活動等、対話的な学習を推進した。	① ・体育の研究授業年間2回実施。 ・都の開発委員教員による体育の授業公開の実施。 ・「ちょこプラ1」による運動の日常化
	② ふれあい月間の取組。「人権集会」、「いじめ防止授業」、安全安心な学校生活をテーマとした標語やポスターづくりなど	② ・全学期、授業観察、教科担任制の実施。 ・学期1回の研究授業・協議会等の実施。 学力調査…全教科で平均値を上回った。	2 ・芝生の養生期間に、裸足遊びの推進。 ・体育委員会主体の「マラソンカード」の取組等により、体力向上に努めた。
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
	① 「豊かな心の育成」 (保) 98.5% (児) 93.8%	① 「授業づくり」「伝え合い」 (保) 91% (児) 85%	① 「体力向上」 (保) 90% (児) 児童 80%
② 「楽しく学校生活を送っている」 (保) 95.6% (児) 93.6%	② 「授業の工夫」 (保) 90% (児) 96.7%		
協議会評価	・6年生がとてもよく下学年の面倒をみている。 ・二小の伝統である「たてわり班活動」は、今後も継続してほしい。 ・卒業後も、子どもたちどうしの繋がりが続いている。	・学校公開や(CSの)授業参観などで、対話的な学習の場面を見ることができた。 ・二小は、学習支援員が充実していることも、学力向上に役立っているのではないかと。	・芝生での裸足遊びや、「マラソンカード」の取り組みはとてもよい。今後も工夫していけるとよい。 ・スポーツ推進委員と連携し、ニュースポーツを体験する取り組みができるとよい。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

	4 安全・安心な学校づくりの推進	5 特別支援教育の推進	6 地域との連携
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	① ・週1回、生活保健夕会を開催し情報共有と適時性のある安全指導を行った。 ・毎月の安全点検、安全指導の実施。	① 校内委を基軸として通級、都・市SC、SSW、保護者、外部機関と連携を深め、個に応じた支援を細やかに行えた。	① 委員による授業参観や、地域人材開発を行い、教育活動の充実に向けた検討を進めることができた。
	② 毎日のアレルギー対応の除去食等の複数点検の実施。食物アレルギー事故ゼロを維持できた。	② 夕会で全教職員での情報共有を行い、児童へのよりよい支援の在り方について共通認識をもち、支援することができた。	2 PTA・地域と情報交換・共有を細かく行った。児童・地域にとって心に残る周年行事が行えた。
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
	① 「安全指導」「規範意識」 (保) 92% (児) 91.8%	① 月1回、校内委員会開催。配慮を要する児童に組織的に対応できた。	① 「地域との連携」 (保) 85.3% (教) 100%
② 毎日、給食の複数点検実施。喫食を伴う教育活動も含め、アレルギー事故ゼロの維持。	② 教職員の共通フォルダ内に「情報共有シート」を作成し、教職員が必要に応じて活用した。	2 「学校の情報発信」 (保) 90%	
協議会評価	・幼稚園では、「ヒヤリハットノート」というものがある。今後も安全点検と情報共有をしっかりとやっていくことが大切である。 ・校庭のアスファルト部分、あと半分も平滑化工事ができるとよい。	・情報の「見える化」ができているのがよい。 ・現代は、特別支援が充実しており、きめ細やかに対応する仕組みがあるのがとてもよい。	・周年もあり、地域との連携が深まった。 ・今後も「すぐーる」で適時情報発信をしていくと、地域の人も学校のことがより伝わる。

人材育成・組織運営

自己評価	・管理職面接による教職員の目標の設定と具体化、校長と各分掌の長との確認等を通し、ミドルリーダーの育成を進めた。運営面での立案や、若手教員のサポートに力を発揮する人材が育ってきている。 ・いじめ防止や不登校対策、特別支援等で組織的な対応を行うことができた。ICTを活用し、会議・業務のスリム化やペーパーレス化を進めることができた。
協議会評価	・若い教職員が多いと感じる。ミドルリーダーの育成や、若手教員の育成を今後も図っていく必要がある。 ・CS公募で採用する教員にも期待する。 ・ICTの活用には、個人差もあるようだが、今後も推進していけるとよい。 ・いじめ防止や不登校対策、特別支援等は、今後も組織的に対応していくことが重要である。

中期的な経営目標の達成状況

1 「たてわり班活動」や「本物との出会い」等の特色ある教育活動の推進により、児童の豊かな心の育成を進められている。
2 学力の定着は、よい状況である。引き続き、児童の主体性や表現力、深い学びについて、授業改善を進めていく。
3 健康保持・体力増進のための取組は充実できたが、児童の体力向上や運動への意欲喚起には課題が残った。
4 安全・安心な学校生活を確立することは、概ね達成できている。
5 児童や保護者の困り感に応じ、個別の支援に組織的に取り組めた。今後もきめ細やかな対応を心がけていく。
6 地域と連携した教育活動を推進することができた。CSとしての特色や方向性をさらに明らかにしていく必要がある。

次年度の重点課題

【豊かな心の育成】・特色ある教育活動の推進(たてわり班活動・本物との出会い等) ・読書旬間等の取組の強化 【授業改善】・研究授業の実施 ・相互授業参観 ・模範授業参観 ・OJTの実施 【地域との連携】・地域人材、地域教材の活用 ・地域行事への積極的な参加 【CSのよさを活かす取組】・教員とCSとの懇談 ・児童朝会等で、CSを子どもたちにも紹介する ・CSを通して、地域との連携を深める
--